

# Economic Indicators

発表日: 2020年4月30日(木)

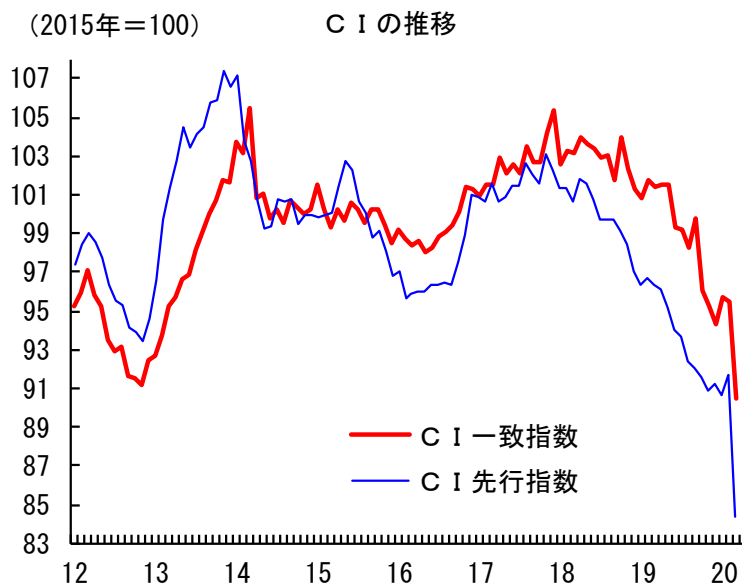
## 景気動向指数(2020年3月)の予測

～前月差▲5.0ポイントの急低下を予想。先行きは悪化ペースがさらに加速～

第一生命経済研究所 調査研究本部  
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴  
 (TEL: 03-5221-4528)

内閣府から5月12日に公表される2020年3月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲5.0ポイントと予想する。単月の悪化幅は14年4月(▲4.7ポイント)や19年10月(▲3.7ポイント)を上回り、東日本大震災のあった11年3月(▲6.2ポイント)以来の落ち込みとなる見込み。3月は速報段階で反映されるすべての系列で悪化が見込まれるが、特に有効求人倍率や投資財出荷指数などの下押しが大きくなるとみられる。内閣府による基調判断も、当然のことながら「悪化」が維持される見込みである。

先行きの景気については、さらなる大幅な落ち込みが避けられない情勢だ。緊急事態宣言発令後、外出手控えの動きが一段と強まったほか、営業自粛等も進んでいることから、サービス消費を中心として国内需要は大幅に落ち込んだとみられる。さらに、欧米を中心として厳しい外出規制や工場の操業停止等が実施されていることで、日本からの輸出も今後は大幅減少が不可避の情勢である。内外需ともに厳しさが増すことが予想され、景気は急激に悪化する可能性が高い。筆者は1-3月期の実質GDP成長率が前期比年率▲4.6%のマイナス成長になったと予想しているが、4-6月期はさらに悪化ペースが加速し、前期比年率▲20%以上の落ち込みになるとみている。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2020年3月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

